2021年9月

No. 45

書道教室 薬院 一凛
sho-do ICHIRIN

# 継続は力なり

# 月刊 一凛

夢は美しきかな、
希望は高きかな、
夢も希望も捨てなければ
必ず近づいてくる

目的は高きかな、その為の
一里塚として目標を定めるべし、
そしてその為に時を
刻むべし、

月刊一凛　No.45〈2021年9月〉

《競書審査員》佐々木峯雲　《発行》書道教室 一凛 薬院　《制作》野口昌芳（NS）

書道教室 薬院 一凛
sho-do ICHIRIN

〒810-0022 福岡市中央区薬院3-7-25 原ビル2F
TEL／092-791-7251　FAX／092-791-7786
http://www.shodo-ichirin.com/

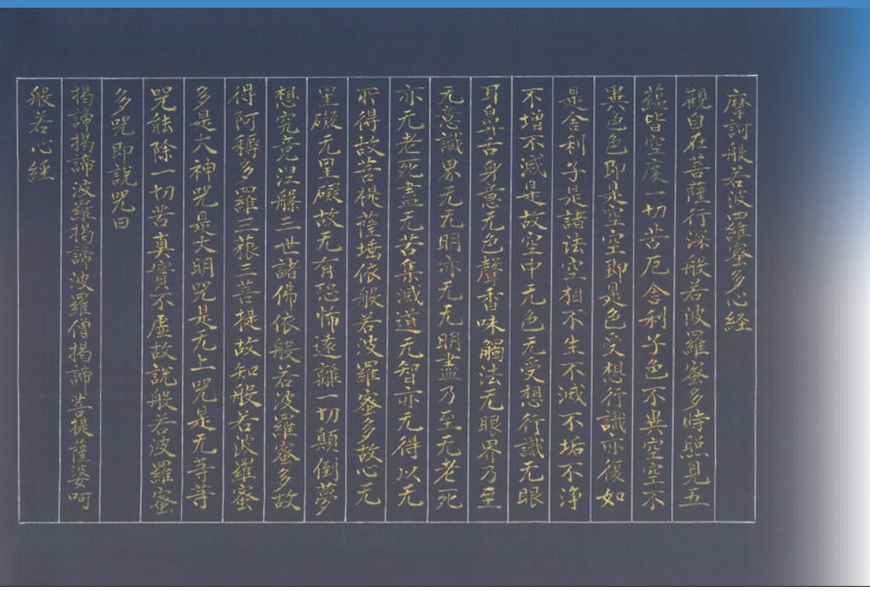
## 【四季と書と】　般若心経―ロックな現代訳

唐の時代に玄奘(三蔵法師)が膨大な量の『般若経』を漢訳して六百巻なる『大般若経』という経典にまとめ、その中に262文字に集約したものを『般若心経』と呼びます。わかり易い”ロック“な現代誤訳をウェブより引用しました。

そして書作品は、五年以上前に両親の健康を願って書いた般若心経です。生前、父はこの作品をとても気に入り大切にしてくれていました。

初盆を機に額装し仏壇の傍に飾ることとしました。

佐々木 峯雲



超スゲェ楽になる方法をしりたいか。
誰でも幸せに生きる方法のヒントだ。もっと力を抜いて楽になるんだ。
苦しみも辛さも全てはいい加減な幻さ、安心しろよ。
この世は空しいモンだ、痛みも悲しみも最初から空っぽなのさ。
この世は変りゆくモンだ。苦を楽に変える事だって出来る。
汚れることもありゃ背負い込む事だってある。
だから抱え込んだモンを捨てちまう事もできるはずだ。
この世がどれだけいい加減か分かったか?
苦しみとか病とか、そんなモンにこだわるなよ。
見えているものにこだわるな。聞こえるものにしがみつくな。
味や香りなんて人それぞれだろう? 何のアテにもなりやしない。
揺らぐ心にこだわっちゃダメさ。それが『無』ってやつさ。
生きていりゃ色々あるさ。辛いモノみないようにするのは難しい。
でも、そんなもの置いていけよ。
先の事は誰にも見えねぇ。無理して照らそうとしなくていいのさ。
見えない事を愉しめばいいだろ。それが生きている実感ってヤツなんだよ。
正しく生きるのは確かに難しいかもな。でも、明るく生きるのは誰にだって出来るんだよ。
菩薩として生きるコツがあるんだ。苦しんで生きる必要なんてねえよ。
愉しんで生きる菩薩になれよ。
全く恐れを知らなくなったらロクな事にならねえけどな。
適度な恐怖だって生きていくのに役立つモンさ。
勘違いすんなよ。非情になれって言っているんじゃねえ。
夢や空想や慈悲の心を忘れるな、それができりゃ涅槃はどこにだってある。
生き方は何も変わらねえ、ただ受け止めが変わるのさ。
心の余裕を持てば誰でもブッタになれるんだぜ。
この般若を覚えておけ。短い言葉だ。
意味なんて知らなくていい、細けぇことはいいんだよ。
苦しみが小さくなったらそれで上等だろう。
嘘もデタラメも全て認めちまえば苦しみは無くなる、そういうモンなのさ。
今までの前置きは全部忘れても良いぜ。でも、これだけは覚えとけ。
気が向いたら呟いてみろ。心の中で唱えるだけでもいいんだぜ。
いいか、耳かっぽじってよく聞けよ。
『唱えよ、心は消え、魂は静まり、全ては此処にあり、全てを越えたものなり。』
『悟りはその時叶うだろう。すべてはこの真実に成就する。』
心配すんな。大丈夫だ。

# 墨を擦る

文＝岡田 雄希

## 五輪はやってよかった！

33歳の時に会社の研修制度を使い米国本土とハワイを丸1カ月間、家族旅行をしたことがある。カミさんと乳幼児だった息子2人の4人家族ゆえに旅費がかさんだ。旅行代理店を通じた便利なパック旅行は高価で使えず、比較的安かった韓国経由の大韓航空機を自分で予約し渡航した。

行きはソウル仁川国際空港からロサンゼルス国際空港まで12時間近くかかった。狭い航空機内で自由を束縛された息子たちはむずがった。初めての海外への子連れ旅行で私もカミさんもオロオロするばかりだったが私の隣に”救世主“が座っていた。韓国陸軍の軍服を着た若い将校さんが私たち夫婦と一緒になって息子たちをあやし、時にはひざに抱いて寝かしつけてくれた。親しくなるにつれ米国の陸軍士官学校に留学経験があることやその際に世話になった教官が退官するのでお祝いに行くつもりだと知り、すっかり打ち解け一緒に酒も酌み交わした。

なぜ、このような話を書いているのか？ というと、終わって間もない東京オリンピックでの韓国代表選手の振る舞いがネット上をざわつかせているからだ。特に両国で人気スポーツの野球やサッカーで韓国代表は日本代表に対して「親の仇」のように戦いを挑む傾向がある。おまけに新種目「スポーツクライミング」のボルダリングで使った人工壁が「旭日旗」をモチーフにしていると韓国側が批判している記事まで現れた。

韓国では、旭日旗あるいはそれに近いデザインが出てくると大日本帝国の悪行を連想し「ナチスドイツのハーケンクロイツと同じ」という声が噴出する。しかし、旭日旗は旧日本海軍でも使っていたが、いま海上自衛隊も使っている。日本では昔から「日出ずる国」の象徴として使われてきた。リベラルな論調で知られる日本の全国紙の社旗も旭日旗と同じデザインを使っている。法律でデザインの使用や掲揚などを禁じているドイツとはわけが違う。

この手のニュースに触れるたびに韓国に対して微妙な反感を持つ日本人が増えることを懸念する。同時に国家間の理解の難しさもあらためて実感する。一方で、韓国人将校さんへの感謝の思い出とともに国と国との理解するには個人個人の交流が最も有効だとも思う。五輪が終了してもなおネット上では日本人ボランティアへの賞賛記事が世界中から発信され続けている。やはり東京五輪をやってよかった！ と考えている。

おかだ・ゆうき／昭和33年3月20日、北九州市生まれ。平成23年12月に一凛に入門。趣味は自転車と酒を飲むこと。酒は誘われたら断らないがモットー。

## いちりん通りの窓から

《許可と恩恵》

テレビやラジオで昨今よく耳にする言葉遣いで気になっていることがあります。例えば「当店では、数多くの商品を取り揃えさせていただいております。」や「美術館で素晴らしい作品の数々を見させていただきました。」など。何かにつけて過度に「させていただく」を使うことに違和感や不快感を覚えるのは私だけでしょうか。

相手を敬う「貴様（きさま）」という言葉は、戦国時代には書簡の中で使われ、江戸時代では次第に口語で使われるようになったそうです。明治時代になると軍隊で同僚や目下の者に対し使われ、昭和時代には庶民の間にも口語として広まり、日常での使用頻度が多くなったことで品位が下がったそうです。「御前（おまえ）」も同様。

「させていただく」は、文化庁の「敬語の指針」によると、「自分側が行うことを、相手側又は第三者の許可を受けて行い、そのことで恩恵を受けるという事実や気持ちがある場合に使われる」とあります。

「相手に許可をもらっているか」「自分に恩恵があるか」のこの2つの条件が満たされている場合に適用されるということです。

NG例としては、誰かの許可は不要なので「本日、休業させていただきます」OK例として、相手所有の資料のコピー許可を求める場合は「コピーをとらせていただきます」

個人的な感想ですが、日常的に猫も杓子もこの言葉を乱用しているようで、「貴様」や「御前」同様に品位が落ちているように思えてなりません。

私が通院している内科医院が最近移転再オープンし、私の書作品（移転前の医院に飾っていたもの）が待合室のよく見える所に飾ってありました。ドクターから「患者さんに評判が良いですよ」と云われ、私が間髪（かんぱつ）入れず発した赤っ恥な返答。「先ほど、見させていただきました。」

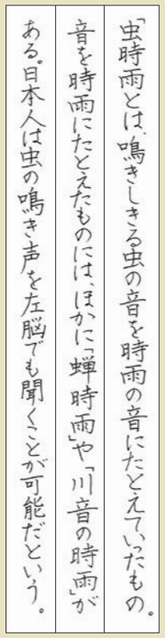
書道教室 一凛　薬院
佐々木峯雲

*COVER ART*
Miki Furukawa

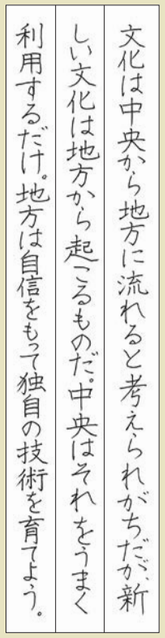
## 9月分課題

9月分課題は10月10日（日）が提出期限予定です。
諦めることなく、コツコツと努力することが何より大切です。
みなさん、今月も頑張りましょう。

### 硬筆

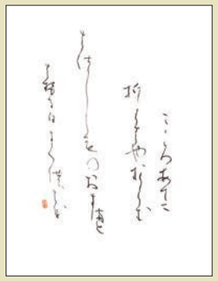



初段以上



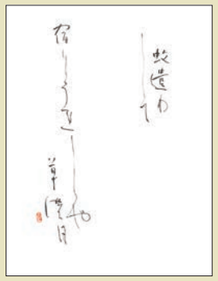

10級～1級

### かな



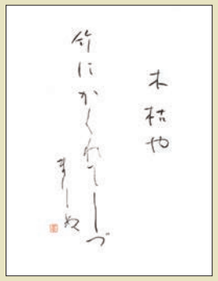
心あてに折らば折らむ
初霜の置き惑はせる白菊の花

六段以上



蚊遣りして宿りうれしや
草の月

初段～五段



木枯や
竹にかくれてしづまりぬ

10級～1級

### 漢字

融通無碍（ゆうずうむげ）

六段以上（篆書）

松蒼柏翠（しょうそうはくすい）

初段～五段（隷書）

10級～1級（楷書）

●配布された手本に間違えがないか、
上記課題一覧を必ず確認してください。

●硬筆の添削に関して
初段以上の方の添削は毎月１回限りとします。
十分練習を重ねて仕上げた作品を添削依頼してください。

今月の硬筆課題は初段以上も楷書につき
**六段以上の方の添削は不要**です。

# 私と一凛。 ⑦

日曜日Bクラス　倉本 万里子（麗華）

多くの方に支えられ、書道教室一凛は創立10年を迎えました。
この節目に際し、生徒さんに書道への思いや教室へのメッセージをいただきました。

Date 2021 September No. 7

子供の頃に習っていた習字をまた始めてみようかなと思い立ち、一凛に入会して10年が経ちました。

入会当初は教室に飾られた先生の作品、流れてくるBGM、お香の香りは正に『大人の書道教室』といった雰囲気で、課題をこなすことも楽しく新鮮でした。ですが、元々飽きっぽい性格の私。正直ここまで続いているのは予想外のこと。

今でこそ教室に通うことが習慣化していますが、途中なかなか昇段できず、やる気も起きず、教室までの足取りが重くなることもしばしば。

そんなときは、この墨が無くなるまでは頑張って続けよう、この小筆が使えなくなるまで…、もう一段上がるまで…、と少し先の区切りや目標を見つけながら続けて来たように思います。

今は月刊一凛に掲載されている皆さんの作品を見ることも励みにもなっていますし、入会当時から同じように継続して通われている方のお名前を見れば、私も頑張ろう！と思わせてくれます。

10年経過した今でも毎月のの提出課題は難しく、半紙1枚を書き上げることの苦しさは増しているようにも思います。技術レベルがなかなか上がらず、頭打ち状態なのが悩みの種ではありますが、苦労しながら仕上げた時の達成感も得つつ、趣味としての書道をマイペースで続けていきたいと思っています。